巻/頭/言

事業の発展に貢献する情報システムの要件

Important Matter of Information System to Contribute to the Expanding Business

小泉寿男
Hisao Koizumi

情報システムの構築と運用の目的の一つは，情報処理の実用化以来，進歩が重ねられてきた業務の効率化と合理化の実現であり，もう一つは情報システムを駆使した事業の改革と発展への支援を主とする経営への貢献である。特に近年は，情報技術の進歩に伴って情報システムは，後者の事業力強化支援の役割がますます大きくなっている。

経営と情報システムとの関連は，経営側が情報システムを活用して事業の実績，及びその実績に至るモノと業務の流れを把握できることが原点と言える。さらに，情報システムによって，ボトルネックの検知，及びモノと業務の流れを変更した場合の実績への影響把握や将来予測ができることも重要である。

これらを可能にする情報システムの主な要件は，情報システムの構築技術，経営側・情報システム部門・ユーザー部門との協調，及び情報セキュリティの３点である。

1. 情報システムの構築技術

基幹系システムと意思決定支援の情報系システムでは，各事業対応の情報システムの連携によって，組織間，事業間にまたがったモノと業務の流れが視覚的に把握されるように構築される必要がある。それによって，リードタイムの短縮や在庫の最適化を図り，事業間連携による新しい価値を生むビジネスプロセス創出が可能となる。

また，業務内容とその流れをモデル化して業務プロセスを可視化し，さらに実務条件を変更してその結果を吟味できるようなシミュレーション機能を持たせることも重要である。このことは，業務プロセスの改善，ボトルネックの解消につながる。

2. 経営側・情報システム部門・ユーザー部門との協調

構築された情報システムの上で，経営側と情報システム部門が協調して，事業の実態把握をすることは有意義である。モノの流れや業務内容変更の結果を予測することによって，経営に直結した情報システムの役割が明確になる。そこには，事業改革の切り口となり得る方策が発掘される可能性が出てくる。

さらに，営業，設計，生産，資材，経理，総務部門等の社内ユーザー部門と情報システム部門とが同じように協調して，業務と情報システム機能との関係を吟味することによって，現場から見た課題解決の切り口の発見や業務改善の発想が出てくる可能性がある。

構築された情報システム上で，このように経営側・情報システム部門・ユーザー部門が協調して，経営・事業と情報システムの融合に努力することは，事業発展につながる情報システムの構築と運用のための重要な要件である。

3. 情報セキュリティ

情報が企業活動の重要な基盤となっていくことによって，情報セキュリティの充実度がますます要求される。したがって，情報セキュリティポリシーの設定と，それに基づいた情報活用がますます重要になってくる。

これらの要件の充実によって，情報システムが事業への貢献を一層強めることを期待したい。さらに，この特集号が事業発展への情報システムの役割と機能について，議論を深めることにつながることを期待したい。

◆東京電機大学 理工学部情報システム工学科 前教授
ex−Professor, Dept. of Computers and Systems Engineering, Tokyo Denki University